

「ローカルファースト」が PFI事業を実現する

2019.07
亀井工業ホールディングス株式会社

INTRODUCTION

「地方創生」という言葉で国の政策が進められている中、各地方自治体は、地域産業の活性化や超高齢社会に対応するまちづくりへの様々な取り組みを行っています。PPPやPFIといった民間と連携して公共性の高い大きな事業を遂行する形もそうした取り組みの一つですが、地場で活動をする私たち亀井工業ホールディングスグループのようなローカル企業が、そうした事業を受注することは、不可能に近いとされてきたのが実情でした。

しかし、地元で100年以上も仕事をし、まちを一番よく知っている企業が、何故、事業を任せてもらえないのでしょうか。中央の大企業が地元の気持ちに寄り添い、長きに亘る真のニーズに本当の意味で応えることは、できるのでしょうか。

私たちは「**ローカルファースト**」という価値観と「**自分たちにしかできないカタチ**」を武器に可能性に挑戦、追求し続けています。

ローカルファーストを掲げて取り組んだ事案 1 「茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業」 概要

1. 事業名称 : 茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業
2. 事業場所 : 茅ヶ崎市浜見平11番1号
3. 事業方式 : UR都市機構の所有地に定期借地権を設定し、市が借地後、民間事業者に転貸し、民間事業者が公共施設及び、その他施設を設計、建設、維持管理、運営を行う
4. 事業期間 : 設計建設期間 約2年5ヶ月、運営期間 30年間
5. 落札金額 : 5,764,115,000円以下であること

茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業 提案パース（１）



当社提案のイメージパース

茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業 提案パース（ 2 ）



茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業

当社の提案コンセプト

茅ヶ崎のライフスタイルを創造し発信するセンター拠点とし、周辺環境に豊かな暮らしを提供する。また時代と共に変化するライフスタイルを積極的に提案し、周辺地域のまちづくりにも波及効果を与える拠点とする。

まち全体を「ビーチガーデンタウン」と命名し、「潮風が吹き抜けるビーチテラスのまち」をテーマに湘南らしい茅ヶ崎のまちの風景を創出。

圏央道の開通後は、茅ヶ崎の玄関口としての顔を持つ「茅ヶ崎らしさ」を演出できる施設とする。

茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業 提案プラン

民間施設に関する事業提案

オーガニックレストラン
配食事業

茅ヶ崎マルシェ

サイクルステーション
ランニングステーション

コンディショニング
センター

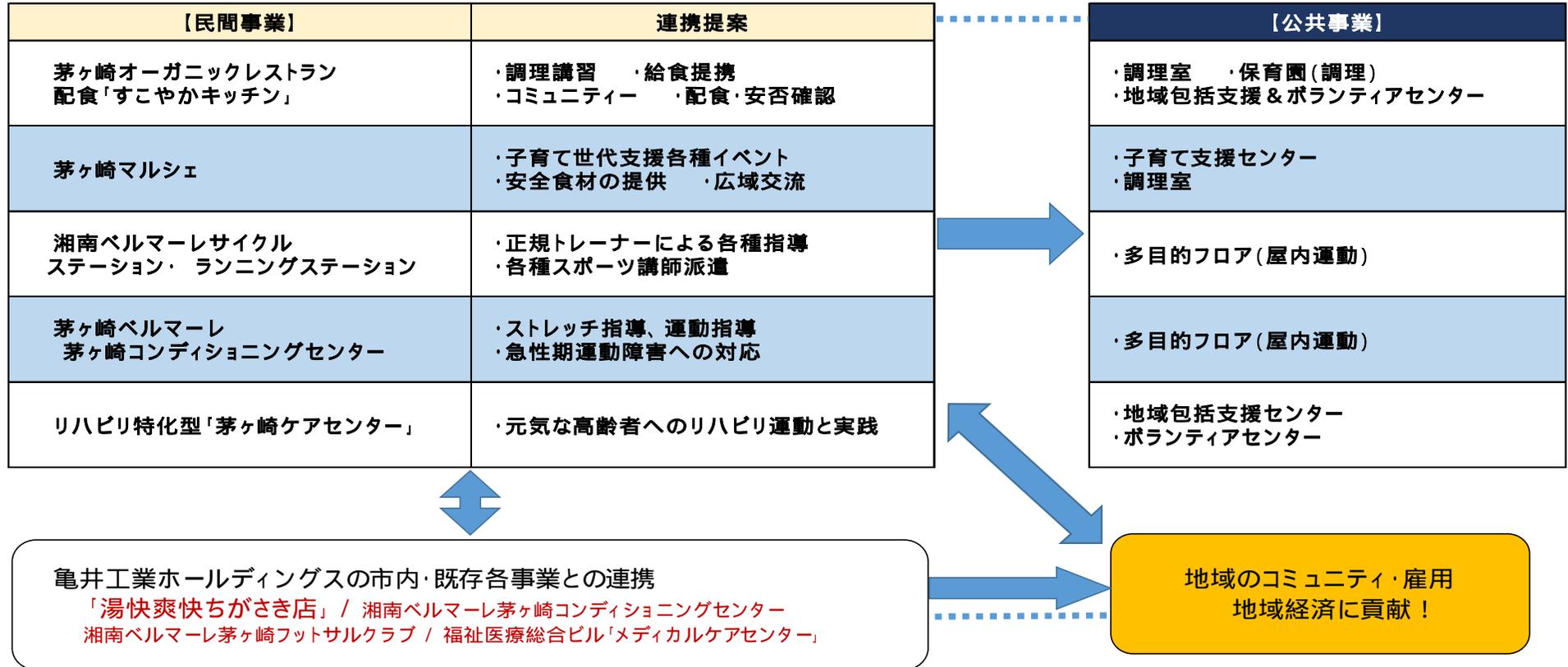
リハビリ型デイサービス

屋上農園

これら6つの提案は、**当社が茅ヶ崎市内で既存事業として培ってきた事業の中から選択したもので**、高齢化に対応した多世代間の交流の確保をし、「食」と「健康」を柱としました。運営・企画・雇用の地元の一体感は、高齢者にとっても大切な「生きる力」になると考えたのです。

茅ヶ崎市浜見平地区複合施設整備事業 提案プラン

民間施設の公共事業への連携提案



しかしこの案件は、「落札・受注」という結果には至りませんでした。

「ローカルファーストが日本を変える」を出版



2013年12月発行

目次

1. なぜ、いま、「ローカルファースト」なのか
2. 「ローカルファースト」先進都市ポートランドから
3. 茅ヶ崎に「ローカルファースト」を見つける
4. 「ローカルファースト」プロジェクトへの挑戦
5. 「ローカルファースト」な明日を考える

目次

はじめに 亀井信幸

1 なぜ、いま、「ローカルファースト」なのか

リレー・メッセージ 地域に取り組む実践者たちと亀井信幸のリレー対談

リレー・メッセージ1

「ローカルファースト」への出会い 対談：杉本 洋文

出会いをつくるネットワーク／まちづくり研究会をスタート。ポートランド視察旅行へ／ポートランドの旅行と貴重な体験

リレー・メッセージ2

「ローカルファースト」が価値観を変えていく

対談：阿部 眞一 欠畑 茂治

「ローカルファースト」を簡単な翻訳ですませてはいけません。地域密着って大企業も含めて誰でもいいけど簡単ではない。自分から行動を起こさないと何も始まらない。できることからやっていく。商店街のやることは後継者育成しかないと言っています。／「ローカルファースト」という言葉を投げつけて気づいていただく。／「ローカルファースト」は地域を開き出すものではない。それぞれが役割を担っていく。／「道徳」が重要。自分たちでビジョンを語らないとならない。それが自分の店に返ってくる。／「ローカルファースト」とは自分ができることを見つけてやっていくということです。

リレー・メッセージ3

スポーツで地域をつくっていく 対談：眞壁 潔

ヨーロッパのクラブの方法から学ぶ。／負けて応援するところから、皆で一緒にやっていく。／二つの共同事業を運営する。／今後の超高齢社会に向けたビジョンを共有する。／ローカルで楽しいライフスタイルを

リレー・メッセージ4

郵便局が「ローカルファースト」を推進する 対談：池島 学

全国規模だが「ローカルファースト」である郵便局。／もっと地域との密着型に。目指すはまちの相談役

リレー・メッセージ5

池袋を芸術と文化のまちにする 対談：小山 浩志

3 池袋モンパルナスの歴史を基盤に文化を育てていく。／大手のデベロッパーではない私たちにできることを。／楽しいまちを楽しくつくる。芸術と文化はそれを可能とする

2 「ローカルファースト」先進都市ポートランドから

「ローカルファースト」なまち

サンフランシスコ～カメル～ポートランドへの視察レポート

18 【サンフランシスコ視察研修報告】

「ライフスタイルセンター」 ベイストリート・エメリールビル／モントレー・フィッシューマンズフーフ／17マイルドライブ&ペブルビーチ／カメル・オーシャン・アベニュー／サンタナ・ロウ／シリコンバレー&スタンフォード大学／SOMA 再開発地区／フェリープラザ ファーマーズマーケット

26 【ポートランド視察研修報告】

オリエンテーション／ダウンタウン／サタデーマーケット／ニューシーズンズマーケット／ノブヒル／シティホール／パール地区／ワイデン&ケネディ広告会社ビル／ZGF社／ZGF社 渡辺寛之さんのレクチャー／マクメナミン元ケネディスクール／高齢者用集合住宅 コートヤード・ファウンテン／その他

半世紀にわたって住むわがまちポートランドの魅力 谷田部 勝

ポートランドの全米 Number One。／まちづくりのための努力

「ローカルファースト」のまち、ポートランドのまちづくり 松本 大地

35 ポートランドの持続可能な社会づくり。／ポートランドスタイルと生活文化価値。／ポートランドスタイルと「ローカルファースト」の繋がり

3 茅ヶ崎に「ローカルファースト」を見つける

茅ヶ崎に思いを込めた「ローカルファースト」レポート

41 【茅ヶ崎の「自然の恵み」】

毎週土曜日の「茅ヶ崎 海辺の朝市」では農家の人たちが誇りをもって育てた野菜たちに出会う。／海がすぐそばでも、家庭ではなかなか地魚を食べることができなくなってしまった。／大人が楽しむ姿を子供に見せたい!! 暮らしを「楽しむ」会

員制庭園。／地域のなかでつながっていく無農薬野菜の農園と家庭的なレストラン

44 【茅ヶ崎の「住まい」】

茅ヶ崎には、なぜか、木造がよく似合う。／茅ヶ崎の造地を歩いてみませんか。／庭先、軒先に茅ヶ崎らしさが見える

51 【茅ヶ崎に「移り住む」】

このまま突き進んでどこまで行くのだろうか……答えは茅ヶ崎のソーシャルビジネスにあった。／茅ヶ崎の好きなお店は「風」。風は世界とつながっている

53 【茅ヶ崎に生きる「ローカルファースト」な人たち】

湘南育ち、レジェンドと呼ばれるプロサーファーが茅ヶ崎を愛する理由。／あの杉山愛のお母さんの活動テーマはスポーツ・教育・子ども。／茅ヶ崎に芸術が育つ環境を作る。／乃羽バレー工団団長 乃羽ひとみさん。／茅ヶ崎というまちは音楽や文化を誘ってくれる人が本当に多い。／140年をこえて生き抜く老舗企業の「ローカルファースト」

62 【茅ヶ崎の「まちの姿」】

5つの性格をもつ、茅ヶ崎のストリート文化。／35.7km²の面積のなかに4つのゴルフ場がある茅ヶ崎。／暮らしの一部である自転車。それを安全に乗る取り組み。／人々を呼び込む個性的な商店街「サザン通り商店街」。／「犬を飼ってください。犬を連れて海岸を散歩したいのです……」。／パシフィックパーク茅ヶ崎からパシフィックガーデンへのエピソード

79 【茅ヶ崎の「祭・イベント」】

江戸時代から続く「浜祭」から「サザンビーチフェスタ」まで。茅ヶ崎には祭好きの伝統がある。／「ハワイと茅ヶ崎は海を隔ててとなりまち」という人がいる。茅ヶ崎のフンは暮らしに浸透。茅ヶ崎青年会議所による「ローカルファースト」な運動。中学生に大切な社会体験の場を提供

83 【茅ヶ崎の「食」】

「ごめんなさい」「ありがとう」を素直に言葉にできることが大事。カフェレストランの枠を超えた場所、Pacific Deli。／河童の美味しい料理の数々、家庭料理の枠を越えているその理由……食材の調達方法にその秘密はあった。／個性のあるパン屋さんが多い。茅ヶ崎は「パン屋さん激战区」といわれている。看板も個性的で色とりどり。アイスクリームはコミュニケーションツールの一つ。すっかり地域に溶け込んだこの店は世代をこえて愛されている。／地域の酒は地域の誇り。自分ができる範囲で地域貢献をしたい。／地域の食材を選びぬき、今年13年目を迎える ラ・ターブル・ド・トリウミ

茅ヶ崎の別荘地文化と湘南サウンドの系譜をたどる 木内 靖 130

CHIGASAKI DATA 132

4 「ローカルファースト」プロジェクトへの挑戦 137

プロジェクト1

サザンビーチプロジェクト 138

地域における「文化拠点」の歴史的な意味／戦前の洋風文化を語る「南河院（なんごいん）」とは／パシフィックホテル茅ヶ崎とビーチパレスの湘南文化／「茅ヶ崎ライブ・ミュージアム」の構想／「サザンビーチプロジェクト」のスタート／コンセプトは「ビーチライフコミュニティ」／拠点機能としての地域への広がり

コラム 明日のサザンビーチへの期待 中島 靖

プロジェクト2

茅ヶ崎ライフスタイル建築 136

茅ヶ崎ライフスタイル建築の提案／地域のコミュニティスペース建築の実例／茅ヶ崎ビーチライフスタイルハウス／茅ヶ崎のライフスタイルの住宅／茅ヶ崎ホテル集合住宅のコンセプト提案／互に見る家～本来の風景を継承する事で生まれるスタイル～

プロジェクト3

子供たちを育て、高齢者の生活を豊かにする「ローカルファースト」事業 166

湘南ベルマーレ茅ヶ崎フットサルクラブ／湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター

コラム 既存の地域社会と「要」に係る構築をしながら「必要とされる場所」に 中里 宏司
「明日をもっと健やかに！」地域における健康サポートの担い手 久野 英範

プロジェクト4

市民とローカル企業の連携が活力ある長寿社会をつくる 171

地域に暮らすことを大切にする価値観の変化がうまれている／「ローカルファースト」なまちづくりの提案／生活支援事業に向けた取り組み／高齢化をテーマとする福祉と医療の複合施設／地域企業の「ローカルファースト」事業への取り組み

コラム 「食」をとおしてすべての人が元気に過ごせる社会をめざして 亀井 泰人
「喫茶メディカルクリニック」これが理想の地域医療なのかもしれない 稲直 俊直

5 「ローカルファースト」な明日を考える 191

「ローカルファースト」によるローカルデザインとは 杉本 洋文 192

ローカルデザインを目指す／成熟時代の全体像のある暮らし／暮らしのニーズの方向性／まちづくりの仕組み／湘南ちがさきの豊かな地域資源の発見／湘南ちがさきは、ライフスタイルの創造都市を目指す／湘南ちがさきのローカルデザインとは

「ローカルファースト」な地域政策 澤崎 宏 202

「ローカルファースト」とは何か／都市のローカルマネジメントの必要性／地域ならではのまちづくりをしよう／ナショナルチェーンと地域文化／「ローカルファースト」マネジメントの具体的手法／シティプライドをもちょう！／超高齢社会とともに多世代のライフスタイルを活かした交流社会へ／「ローカルファースト」な地方都市の誇りを世界に発信しよう！

巻末メッセージ 「ローカルファースト」が日本を変える

対談：亀井 信幸、杉本 洋文、亀井 泰人 210

郷土愛を根底にして「ローカルファースト」を皆でつくっていく／背景に大きな価値観の変化がある／グローバルとローカルをどのように考えるのか／「ローカルファースト」とは視点を変えること／公益法人「ローカルファースト」の設立に向けて創造を楽しむ

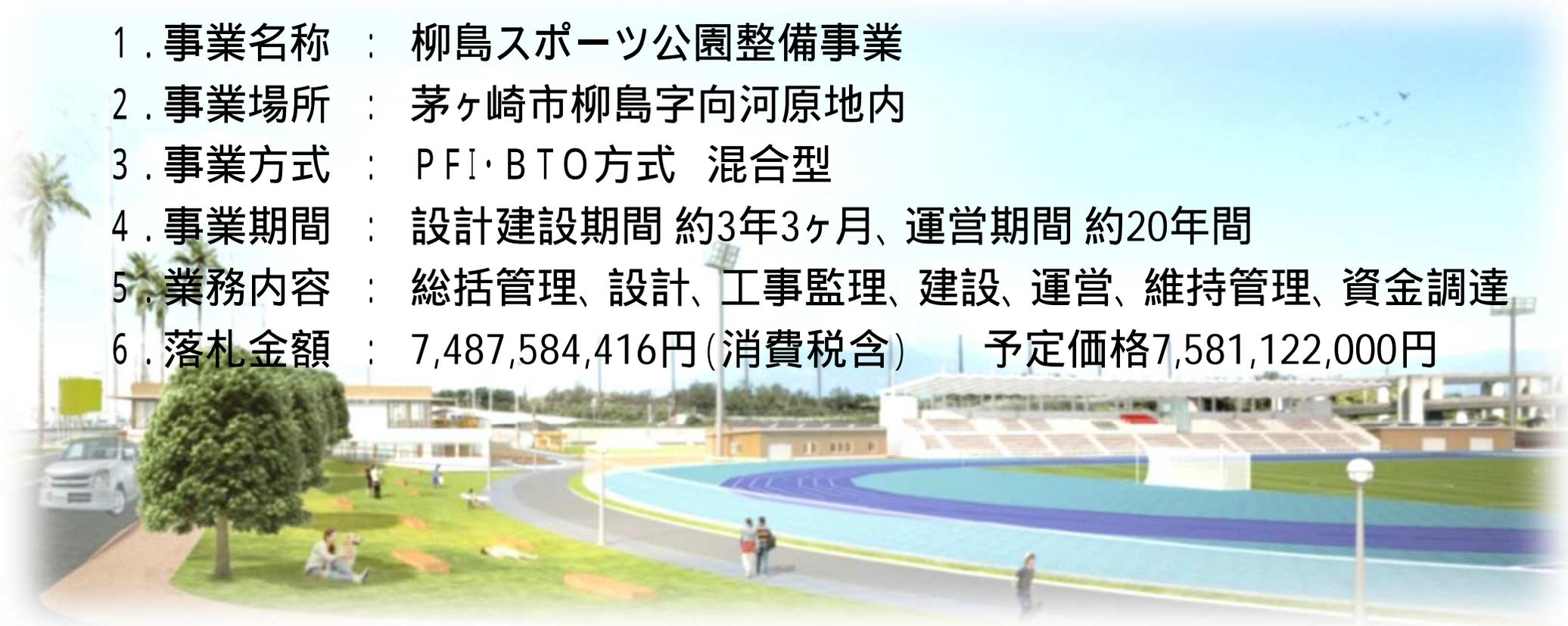
CHIGASAKI PHOTO SKETCH

海にでかける (48) / お店 (88) / サザンオールスターズ コンサート (134) / まちの風景 (188) / 里山 (214)

おわりに 218

ローカルファーストを掲げて取り組んだ事業 2 「柳島スポーツ公園整備事業」 概要

1. 事業名称 : 柳島スポーツ公園整備事業
2. 事業場所 : 茅ヶ崎市柳島字向河原地内
3. 事業方式 : PFI・BTO方式 混合型
4. 事業期間 : 設計建設期間 約3年3ヶ月、運営期間 約20年間
5. 業務内容 : 総括管理、設計、工事監理、建設、運営、維持管理、資金調達
6. 落札金額 : 7,487,584,416円(消費税含) | 予定価格7,581,122,000円



柳島スポーツ公園整備事業 概要

敷地面積	約6.5ha
地域地区	用途地域指定なし(市街化調整区域)

施設名	要素
公園	園路、広場、植栽地、駐車場(普通車:246台以上、大型7台以上)、駐輪場(136台以上)、バスロータリー、防災施設、管理施設 等
エントランス	メインエントランス、サブエントランス
屋外体育施設	総合競技場、テニスコート、ジョギングコース
建築施設	メインスタンド(1200席以上)、公園管理室、競技運営室、多目的室、器具庫、防災倉庫(100m ² 以上)、トイレ 等
自由提案施設	クラブハウス(レストラン、スタジオ、サイクルステーション、コンディショニングセンター) 事業者提案

柳島スポーツ公園 位置図 (1)



柳島スポーツ公園 位置図 (2)

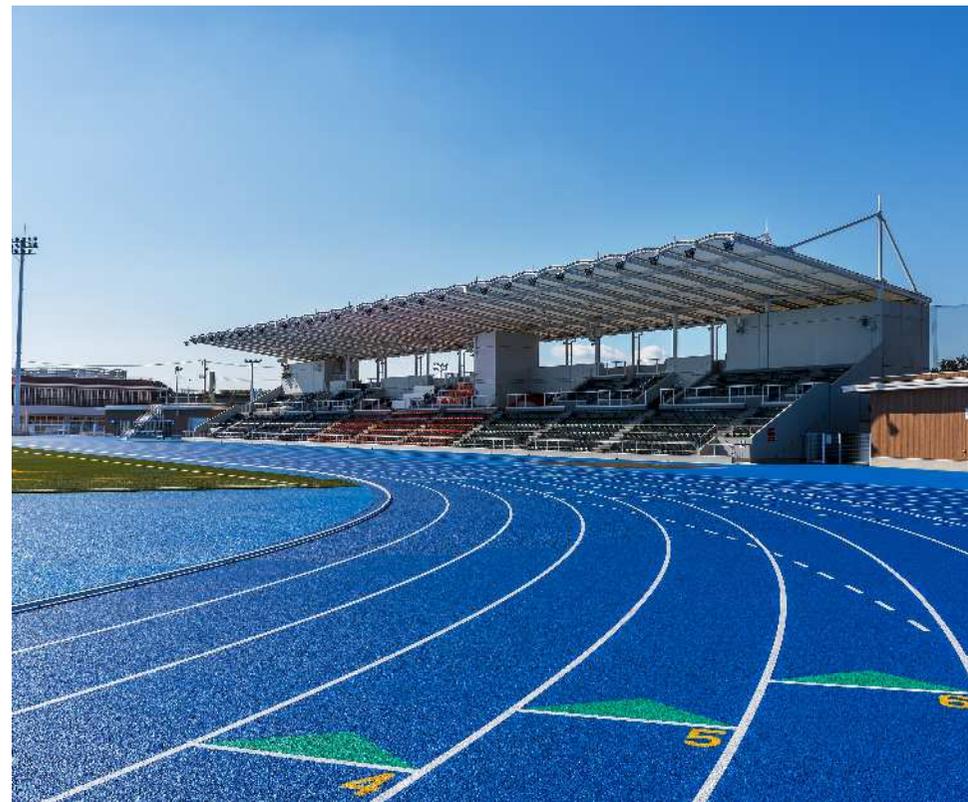
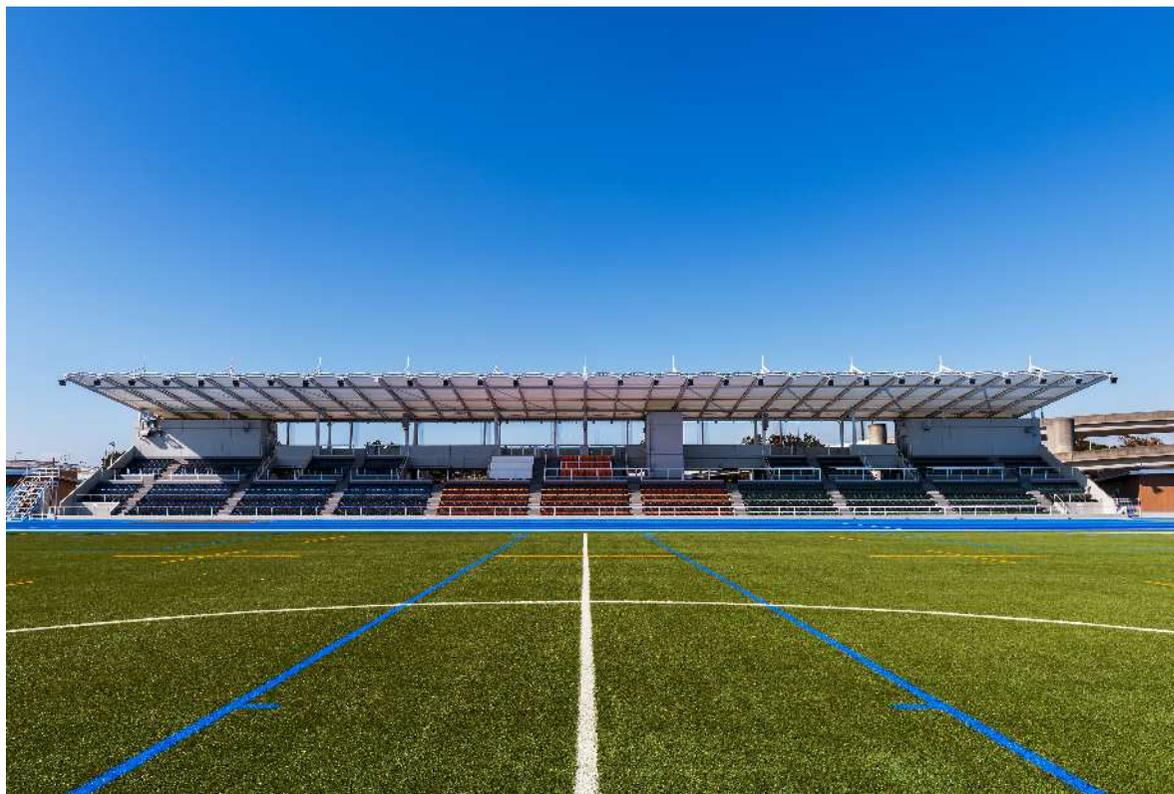


柳島スポーツ公園 全景



柳島スポーツ公園

総合競技場～メインスタンド



柳島スポーツ公園整備事業 施設

テニスコート / クラブハウス



柳島スポーツ公園

2018.3.25
オープニングセレモニー



柳島スポーツ公園



コミュニティスタジオ ヤナギシマラボ

柳島スポーツ公園



柳島キッチン

柳島スポーツ公園

湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター柳島



湘南ベルマーレサイクルセンター



柳島スポーツ公園 ～ 地域との交流活動（工事期間中）

柳島アートプロジェクト



親子
工事現場
見学会

（仮称）柳島スポーツ公園整備事業

平成25年12月、茅ヶ崎市西部の柳島地区における「（仮称）柳島スポーツ公園整備事業」の実施方針が公表。

前段で紹介した「浜見平地区複合施設整備事業」の失注から得た課題を踏まえ「**地域のための事業を地域の企業が行う意義**」を「ローカルファースト」の価値観をより明確に打ち出して再度チャレンジしました。

予算規模からみて不可能と言われる案件にローカル企業がチャレンジする姿勢を示すことにも意味があり、そして全国の中小企業に希望を与えられる「成功事例」として成し遂げること、それによって本当の意味で「地方創生」を推進することが使命だと考えました。

柳島スポーツ公園整備事業への挑戦

茅ヶ崎市の基本プランは、メイン競技場とそれを取り巻く公園整備であり、受注において重要となるのは「自由提案」と呼ばれる独自のプランでした。

この自由提案では、**いかに付加価値のある内容を打ち出せるかがポイント。**

私たちは、

「私たちにしかできないカタチ」と

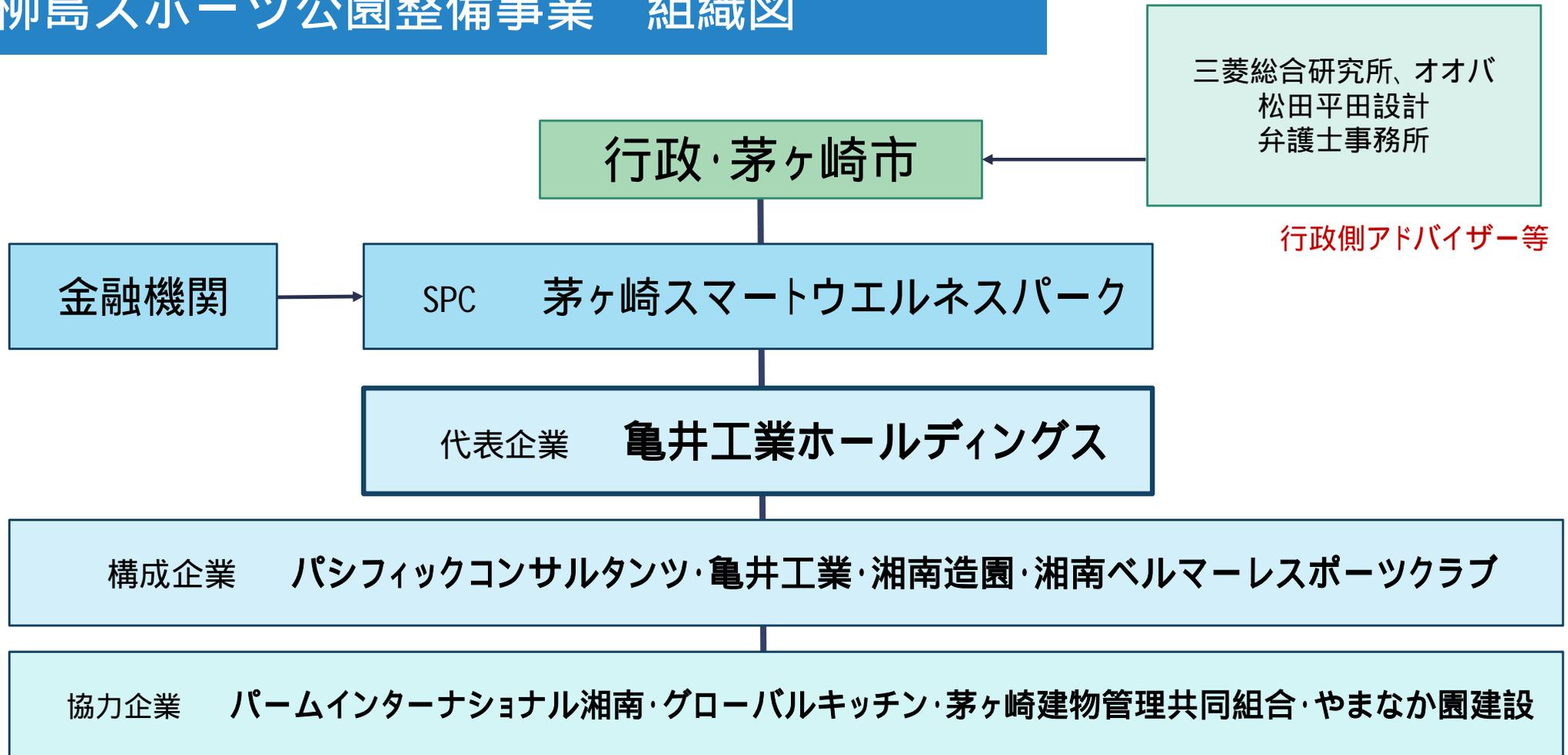
「地元企業の連携による施工と運営」に、こだわり計画を練りました。

亀井工業ホールディングスグループや地元を中心とした構成・協力企業が

これまでに取り組んできた様々な事業の組み合わせと融合で

「新しいスタイル」を生み出し、豊かな長寿社会を実現することを目指しました。

柳島スポーツ公園整備事業 組織図



柳島スポーツ公園整備事業 提案内容（１）

自由提案

あらゆる市民がスポーツを始めるきっかけづくりができて、またスポーツのある豊かな生活習慣を身に着ける場となる４つの施設を計画

１．レストラン

～身体が喜ぶレストラン～
『ナチュラルフーズ柳島キッチン』

伸び盛りの子供たちやスポーツ愛好家、アスリート、健康意識の高い方から高齢者までの幅広い市民を対象としたカロリーや栄養素、栄養バランスを配慮した食事の提供。市民向けの栄養教育教室の開催、高齢者が長く自立できるための運動と食の指導など

２．サイクルステーション

～自転車のまち茅ヶ崎を発信する～
『湘南ベルマーレサイクルステーション』

スポーツサイクルやランナーが立ち寄って休憩や更衣、自転車のメンテナンスをする場と、情報交換と交流を目的とした「サイクルステーション」の提供。観光やレジャーとして楽しむサイクリングの専用情報発信拠点として「自転車のまち・茅ヶ崎」を応援

柳島スポーツ公園整備事業 提案内容（2）

3. スタジオ

～年間を通して快適な
生涯ウエルネスの場を提供～
『コミュニティスタジオ ヤナギシマラボ』

子供から高齢者まで三世代が参加できる多
彩な運動プログラムを実施する場。2つのスタ
ジオを設置。各専門分野で活躍する講師に
よる教室やセミナーを企画、開催。

4. コンディショニングセンター

～今日よりも明日をもっと元気に！～
『湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター』

運動機能改善、急性期の治療と改善をトータル
に行う施設。健康な身体づくりや維持管理、
パフォーマンスアップをサポート

平成26年9月
地元企業と協力し練り上げたこれらの計画で「75億円」の事業を受注

柳島スポーツ公園整備事業 講評(1)

選ばれた理由 (茅ヶ崎市の講評より一部抜粋)

方針・取り組みについて

地域におけるスポーツを軸としたコミュニティ形成や「ローカルファースト」というコンセプトの明確な打ち出しがあった。地域ニーズを踏まえた施設内容やスポーツプログラムの実践など民間ノウハウを活かした取り組み内容と、それを地域一丸となって最後まで遂行していく意欲があった

地元経済社会への貢献

「ローカルファースト」のコンセプトで地元中心の業務実施体制を構築し、積極的な地元在住者の雇用確保、地域(県内)で生産される材料の採用、地域社会との連携、地域活性化への貢献について具体的かつ実現性の高い提案があった

柳島スポーツ公園整備事業 講評(2)

選ばれた理由 (茅ヶ崎市の講評より一部抜粋)

公園計画

スポーツ利用だけでなく、**近隣住民の日常的な立ち寄りへの配慮**やクラブハウスによる公園のシンボル創出、クラブハウスからの明確なアクセス動線について高く評価した。また、茅ヶ崎駅から公園までの送迎バスの運行、大会やイベント時に地元企業と連携したパーク&ライドのプランなど運営面においても具体的で優れた提案があった

地域の賑わい創出への配慮

メインスタンド前のオープンスペースの雰囲気とその周辺空間の繋がりを活かし、**クラブハウスを中心とした地域交流拠点の形成となる施設配置**がされていた。

構成企業

湘南ベルマーレスポーツクラブ

湘南平塚を中心にスポーツによる地域振興を積極的に行っている。それらのノウハウを活かし、スポーツ公園全般の運営に関わる

パシフィックコンサルタンツ

事業プランをはじめとした受注における全般的なコンサルティング。受注後も構成企業として運営に直接かかわる(コンサル企業としては挑戦的なこと)

湘南造園

公園整備全般の施工、管理

亀井工業

競技場、クラブハウス等の施工、管理

柳島スポーツ公園整備事業 構成・協力企業

協力企業

パームインターナショナル湘南

元テニスプレイヤーの杉山愛を理事長とする団体で、各種運動プログラムや教室、イベント、レストラン等の企画運営にかかわる

茅ヶ崎建物管理協同組合

施設全般の維持管理

やまなか園建設

公園整備全般の維持管理

グローバルキッチン

レストラン部門の監修、企画、運営

この他、事業全体の施工等に関して「茅ヶ崎建設協同組合」との協力関係も構築

今後のあるべき方向性～ローカルファーストが導く「真に豊かな未来」

地域のための事業を地域の企業が行う意義、「ローカルファースト」の価値観がもたらす効果や影響について行政から評価・理解を得ることができたことは大きな前進。私たちの取り組みは、内閣府の事例にも公民連携のモデルとして紹介された。

予算規模的に不可能と言われた事業案件にローカル企業がチャレンジし、受託に至った実績が全国各地の中小企業への希望になる。一方でPFI方式を推進するための課題が多く、法整備や改正などが求められる。

資産、企画、運営、地域連携がスムーズにできるネットワークづくりなど、企業自身の体力を上げていく努力は一層必要となる。まちづくりに対する意識と価値観を日頃から共有し、ビジョンを明確にして臨んだ結果が本当の意味での「地方創生」となる。

時代の一步先を考えた発想でチャレンジをつづける「総合生活企業」

亀井工業ホールディングスグループ



ローカルカンパニーのローカルファーストな

「まちづくり」



亀井工業ホールディングス株式会社

所在地 神奈川県茅ヶ崎市南湖1-4-25 ☎0467-86-1111(代) URL <http://www.kamei.ne.jp>

【グループ企業】

- 亀井工業株式会社
- 相模開発株式会社
- 東和工業株式会社
- グローバルキッチン株式会社
- 株式会社山下組

茅ヶ崎スマートウェルネスパーク株式会社 (特別目的会社)

- ・野天陽元 園芸爽快ちがさき ・野天陽元 園芸爽快ごま ・園芸爽快「開けろ横丁」みはま
- ・介護付有料老人ホームクアヴィレッジ湘南茅ヶ崎
- ・生活サポート付シニア向け賃貸マンション ビバヴィレッジ湘南茅ヶ崎
- ・訪問介護・生活支援事業所しおさい
- ・鍼灸整骨院湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター(北茅ヶ崎/茅ヶ崎駅南口1/柳島)
- ・湘南ベルマーレ茅ヶ崎フットサルクラブ
- ・柳島スポーツ公園
- ・コミュニティスタジオ ヤナギシマラボ
- ・柳島kitchen



2018年7月発行

経営理念

『心のまち、夢と希望の未来にチャレンジ!』

心、心、心
豊かな心を奏でる「まち」
人にやさしさ、あたたかさを
互いの幸せを願う
夢や希望のあふれるまち
夢、夢、夢
夢をかたちに
希望をかなえる会社
人の喜びを自分の喜びに
笑顔や感動、誇れる仲間
自由な発想、創造力で、幸せな未来にチャレンジ!

経営理念は2000年にグループの目標の強化と意識向上の目的に新部長員が話し込みで合意を行い、ロードアウトし合意したものである。今もグループ全体共通の目標として掲げ、実現している。

事業6つの柱

健やかな超高齢社会を築く
総合生活企業グループ



Top Message



代表取締役社長

Nobuyuki Kamei

『ローカルファースト』が日本を変える

亀井工業ホールディングスグループは、「心のまち、夢と希望の未来にチャレンジ!」という経営理念のもと、自由な発想と想像力で地元湘南から新しいライフスタイルを発信しています。もともと私たちは、ソシオカンパニー、すなわち本業を前じて社会貢献する企業という意味ですが、そうした精神を創業以来持ち続けてきました。時代ごとに求められる「必要」を模索して、それをカタチにして提供することが今も変わらぬ姿勢です。

社会は今、異境、経済、災害など多くの問題に直面し、特に少子高齢化による経済の縮小、超高齢社会への備え不足は深刻です。もちろん国も制度や仕組みの抜本的な見直しを推進していますし、同時に「地産地消」「地域活性」「地方創生」といった言葉と共に、地方の行政や民間企業にこうした取り組みを委ね始めています。そしてこの方向性が私たちローカル企業にとってビジネスチャンスであることも確かです。しかし一方で、地方、地域における旧態依然とした受け身の意識も変わらず、施策の理解や解釈に温度差があるまま、それぞれが各論で収束して

しまう状況には、違和感がありました。その中で、私たちは「企業としての使命は何か、何をすべきか」を常に考え続けてきました。先行きの不透明な現状を打破できるような、持続的に維持発展する希望ある「まちづくり」を目指す上で、本当に必要な「意識」「価値観」とは何か。

「ローカルファースト」という言葉があります。アメリカオレゴン州ポートランドで出会った言葉で人々の意識や価値観を表すものと捉えています。ポートランドでは、地域資本の店で買い物をして、地元のレストランで食事を楽しむ、自ら産物を美味しく保つという人々の意識が高く、それが創り上げるまちの活気にすぐに魅了されました。自分たちのまちに愛情と誇りを持った選択と行動をする、それが次世代への責任にも繋がります。「真に豊かな暮らし」をもたらすことになるという気づきを得ました。

湘南茅ヶ崎のまちづくりのヒントやモデルになるものを探る目的で、私たちは他にもアメリカ西海岸やヨーロッパなど世界各地の「まち」の視察を重ねています。日本で問題視されている「シャッター

街」のような場所は殆どありません。いずれも個性溢れる地域の店が生き生きと商売を営み、暮らす人々も当たり前のようにそうした店を利用します。ローカルファーストが当たり前前に存在しています。しかしこれらは決して新しい「仕組み」ではなく、むしろ本来あるべき「経済の循環」であり、高度成長の中で見失いかけていたものではないでしょうか。物や情報に溢れる豊かな社会をつくってきたのも私たちですが、その利便性だけに偏らず、「何を大切に何を選ぶか」を常に意識して行動することが大切だと思えます。一人一人の意識が変われば、まちも変わるはずだと。

今後も、私たち亀井工業ホールディングスグループは、創業以来の姿勢、「まち・人・未来を健やかに」というビジョン、そしてローカルファーストの価値観を基盤に、各社、各事業部が持ち合わせるスキルを十分に発揮しながら、地域社会に貢献していきたいと思えます。その夢の先に、真に心豊かなライフスタイルがあり、そこから生まれる活力が地域を、日本を、世界をも満たしていくことを信じています。

自分たちのまちを 自分たちの力で創る

建設で築いた地域基盤 砂利販売から舗装工事、 土木、建築へ

『まち・人・未来を健やかに』

これは、私たち亀井工業ホールディングスグループが創業120周年に社員全員で考えた「新120年ビジョン」。それまでの120年を主に支えた土木・建築・建材事業による「まち」づくり、この先の120年をリードするべく展開している健康、スポーツ、福祉、食、温泉など「人」の生活や心身を豊かにする取り組み、それら全事業を通して築く「未来」が真に健やかであるよう、それを实践するオンライン企業へ！という決意を込めた言葉です。ただ決して新しい発想では

ありません。むしろ積み重ねてきた道を振り返り、今の社会の課題を捉え、あるべき企業の姿を模索した時、明確に浮かんだイメージが創業以来変わらず貫いてきた「地域に必要な仕事をする事」でした。まさに必要なインフラやサービスは何か、時代の一步先を考えた発想とチャレンジができる「総合生活企業」として、健やかな「まち」と「人」と「未来」を創っていくことが私たちの使命です。

その、健やかなまちづくりのためにもとも基盤となる事業、それが「建設」です。

戦国武家が戦い西洋文明が一気に広がり、明治ができた明治の時代、国の近代化は加速度的に進み、この急ピッチで進むオンライン企業へ！という決意を込めた言葉です。ただ決して新しい発想では

創業です。伊豆や駿河の河川や海で採取した砂利を舟で相模川の河口に運び、茅ヶ崎駅までは馬で運搬。そこから需要の多い横浜や東京へ鉄道で運び事業は拡大していきます。明治30年代には建築土木事業にも参入し、当時、東洋一と謳われた箱根温泉所の南湖院の宮殿や土木工事に携わったことがその後170年以上にわたる建設業の出発点となりました。

本業以外の部分でも地元住民が求めることを率先して行い始めた大正期は、医療現場に不安があった茅ヶ崎に他県から医師を招き開業支援をしたり、消防車を寄付したり、また衛生博覧会や国合歌舞伎の開催など医療や防災、娯楽に至るまでの幅広い取り組みで地域貢献をしていきました。昨今CSR(Corporate Social Responsibility - 企業の社会的責任)と言われるこうした取り組みも、この頃から「健全なまちづくり」を目指す地元企業の使命と考えていたのだと思います。

建設業は戦後、無土化した各地の復興、その先の高度成長、そしてバブル経済が終焉を迎えるまでによって大きく拡大成長

していった産業の一つ。当社も地域のゼネコンとして道路、橋梁、ダム、港湾、上下水道など官公庁の仕事を中心に多くの受注を重ねていきます。その過程で山打組やアスファルト合材の製造販売を行う相模開発、測量や中小規模の土木工事を扱う東和工業というグループ会社を設立し、常に新しい技術獲得に挑戦しながら、まちづくりに必要なあらゆる建設に関わる体制を培っていきました。

平成になるとバブルの前夜やリーマンショック、東日本大震災、超高齢社会化など国の経済や体制を揺るがす事象が次々に起こります。公共工事の減や予算は厳しくコントロールされ、激化する受注競争の中、潤沢な経費で着払いできる工事は殆どありません。今後も増え続ける高齢者を中心とした福祉予算を踏まえると、行政にまちの整備工事やサービス提供をする余力はなく、破綻する最悪のケースもあり得る世の中です。この状況を打開する方法の一つにPFI(Private Finance Initiative)という形がでてきました。本来、国や行政がやるべき事業を資金調達

や運営も含め民間に委ねるものです。「健やかなまちづくり」をしたいと願う私たちにとって、これは大きなチャンス。しかし実例の極めて少ない事業を受注し、また成功させるには建設の実績はもちろんのこと、将来性のある多彩な計画を提案しプロデュース、運営までできるノウハウを持つことが重要でした。私たちは100年以上続く建設事業に加え、こうした「今」の状況を見据えて約20年前から新たな取り組みを始めました。



1890年 (明治23年)	1947年 (昭和22年)	1969年 (昭和44年)	1978年 (昭和53年)	1984年 (昭和59年)	1990年 (昭和65年)	1998年 (昭和73年)	2000年 (平成12年)	2001年 (平成13年)	2006年 (平成18年)	2007年 (平成19年)	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2013年 (平成25年)	2016年 (平成28年)	2018年 (平成30年)
亀井砂利創業	山下組創業	亀井工業株式会社へ株式譲渡	相模開発株式会社設立	東和工業株式会社設立	亀井工業株式会社へ社名変更	1700周年 創業として新社屋完成	建設現場でまきオープン	建設現場でまきオープン	株式会社設立	株式会社設立	170周年記念事業	170周年記念事業	170周年記念事業	170周年記念事業	170周年記念事業

亀井工業株式会社

明治23年創業以来、約90年を経過するにも関わらず経営理念を「企業は人なり」という信念をもつて担いながら、建設という「なりわい」を通して「まちづくり」の一翼を担っている。創業128年の歴史の中で地域のみならず共にその時々、地域に必要なものを考え、現代や地域の状況に合わせて変えるよう努めている。グループ各社との相乗効果、事業の統合で無限の可能性を秘めたダイナミックな事業展開のできる建設会社へと進化を遂げている。

所在地 神奈川県茅ヶ崎市三浦1-4-25 ☎0467-86-1111(代)
代表取締役社長 亀井 信幸 URL <http://www.kamei.co.jp>

相模開発株式会社

昭和45年以内の高度成長期、大型の舗装工事で高成長を遂げた亀井工業の建材供給不足を補填するため、アスファルト合材プラントを自営で行う目的から設立した。時代のニーズに合わせて昭和60年には建設現場からの再生砕石、再生アスファルト合材の製造販売も開始。平成77年の建築関連分野による物流の急激な変化で新たな競争がある中、舗装工員専門の責任を有する公団員と協力を広げ企業の経営安定化をはかっている。

所在地 神奈川県藤沢市町田1577 ☎0467-74-5505(代)
代表取締役社長 亀井 勇良 URL <http://sagami-kaihatsu.jp>

東和工業株式会社

建設工事の製造現場を拡大べく、測量設計事務所としてスタートしていた事業を平成53年に東和工業とし、測量、上下水道、外構などに主に茅ヶ崎市内の中古物件を譲り渡した。土壌汚染が社会問題とされた背景を受けて後に地盤調査・改良事業にも参入した。FMOコマの大山電波塔建設は山頂という厳しい作業環境下にも関わらず亀井工業と共に無事竣工を完成させた実績もある。現在は藤沢市に移転。

所在地 神奈川県藤沢市大庭5348-9 中庭ビル202 ☎0466-90-5100
代表取締役社長 杉本 六郎 <http://www.touwakogyo.jp>

株式会社山下組

亀井工業ホールディングスグループの建設事業の一環を担う子会社として、土木、舗装工事の設計・施工を請負っている。「山下組」の歴史は古く、明治30年の創業で亀井工業(当時は亀井土木)と共に創業してきた。2007年にグループとしてのニーズを鑑み「相模トラスト住宅」「相模トラスト不動産」へ社名の変更を経て、2017年に再び「山下組」として新たにスタートを切っている。

所在地 神奈川県茅ヶ崎市平太夫新田40番地 ☎0467-82-1766
代表取締役社長 亀本 吉彦

東京大学と取り組む 地球プロジェクト。

なぜ茅ヶ崎の
ローカル企業が
400数社の中から
パートナーに
選ばれたのか？



千葉県柏市豊四季台団地事業企画

これからの社会を持続可能にするカタチはなにか？

私たちは、高齢化が進む社会の渦中にいます。先進国における長寿傾向は特に際立ち、各国がさまざまな政策で仕組みの再構築を行っています。わが国は10数年後には高齢者の割合が3割を超え、80歳以上の独居が今以上に当たり前になる世の中を想定した時、はたして制度や街のインフラ、そして個人の意識は状況に相応しく高まり、整っているでしょうか。

2009年、そうした社会背景を受けて千葉県柏市と豊四季台団地を管理する独立行政法人都市再生機構、東京大学高齢社会総合研究機構が研究会を発足し、団地内の人々が気晴らしに立ち寄ることができる「交流の場」の具現化に向けて動き出しました。人は、人と接することで元気になるという考えを基本に「食べる」「運動すること」「働くこと」「交流すること」、こうしたことができる複合施設をひとつの「カタチ」として提唱。これを実際具体的に運営する事業者を募集したのです。



大手に競り勝ったローカル企業のビジョンとノウハウがここに！

「食べる」「働く」「交流する」場を… 地域活性的なビジネスモデルへ

この事業には、大手食品会社や外食チェーンなど実に40社の応募がありました。複合施設の目玉として「コミュニティ食堂」というコンセプトもあり、そうした企業が手を挙げてくるのは当然でしたが、その中で選ばれたのは、私たち亀井工業ホールディングスだったのです。

私たちは課題である複合施設を「コミュニティ食堂」、「コンディショニングセンター（治療と運動を融合した新しい治療院）」、「屋上菜園」、「コンビニ」というコンテンツにまとめて提案しました。食堂で作った食事はそこで提供するだけでなく団地に住む高

齢者へ配達することも可能。配達時の安否確認や、買い物代行などのサービス付加も可能だと企画しました。各施設の従業員には地域の高齢者や主婦などを積極的に採用し「仕事」を地域に生み出します。さらに生活相談やサークル、イベント活動を支援する地域コミュニティづくりも提案しました。

何故、私たちが選ばれたのか。コンビニ以外に全て自社で設計施工ができ、さらに事業の企画運営まで可能というのは大きな評価ポイントだったと思います。ノウハウを他人任せにせず自己完結できれば、多くの要素を一元管理できるメリットもあるからです。つまりこれからの高齢化社会の中で、私たちのような地方の中小企業、すなわち地元資本がこうしたビジネスを成立させることができれば、それは他の地域における「可能性」へ繋がります。東京に本社を置く大企業ではなく、地方の中小企業が業務を中央資本に丸投げせず自己運営することで経済は地元にしかりとまわります。全国の地方企業が活用できる「日本のビジネスモデル」を作りたい、それによって日本は元気になるという強い思いが東京大学はじめ研究会の方たちの主旨に響いたのだと思います。

私たちは神奈川県茅ヶ崎市に拠点を置く「総合生活企業」。創業は古く1899年（明治26年）で今年128周年になりますが、その歴史の殆どは「建設業」で支えてきま



日本の最先端モデル？ いえ、これは 「地球プロジェクト」です！

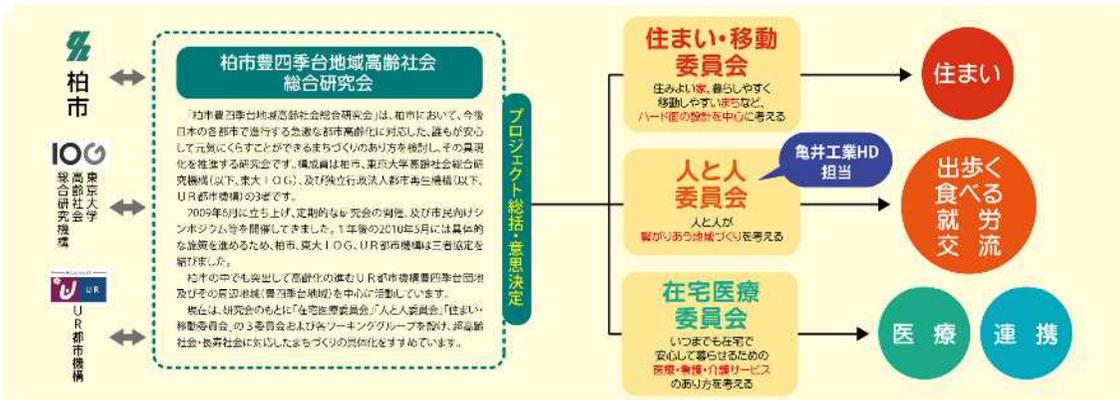
しかしバブル経済の終焉を受け低迷する建設業だけでこの先の経営を続けることに危機を感じ、今一度、創業以来の会社の理念に立ち返り、その使命を「総合的なまちづくり」へと昇華させます。そして今から20年前、温浴事業を始め、今日に至るまでに健康スポーツ、福祉、飲食事業へと拡大してきました。柏市豊四季台団地への提案では、新規で取り組むものはなかったのです。すべてこれまでに行ってきた仕事の組み合わせです。まちづくりへのビジョンと実践して得たノウハウ、そして地方企業の実績を評価して明るく希望のある日本にしたいという思いが凝縮された提案内容でした。



東京大学の秋山弘子特任教授はこの取り組みの可能性を「地球プロジェクト」と表現します。豊四季台団地のプロジェクトで目指したのは、「住み慣れた地域で最期まで自分らしく老いることができる社会」すなわち「Age in Place」の実現。「田舎で、食べる」をキーワードに、温浴事業とわいわい食堂（仮称）で健康と安心・安全で楽しい食と憩の場を提供し、それらを運営・維持するための高齢者就労を実現し、また地域住民参加・交流型のコミュニティ倶楽部の創設も計画していました。若者から高齢者まで、いつまでも元気・自立して生活していくための身体ケア、運動指導などの施設として、コンディショニングセンターを併設し、新しいコミュニティのカタチで地域の人々の暮らしを総合的に支援しようというものでした。

この豊かな長寿社会に向けた取り組みは、全国に先駆けたモデルとして評価され、地元湘南茅ヶ崎でも私たちが「豊かな長寿社会コンソーシアム」の活動メンバーとしてそのノウハウの提案を通して地域貢献を目指すなど、さらなる全国展開への活動へと繋がりました。最先端と言われる取り組みは、回や各業界から非常に注目され、2016年1月には内閣府経済社会総合研究所の「公民連携手法研究会」で公民連携の最先端モデルとして紹介されました。東京大学の秋山弘子特任教授からも「将来の日本を豊かな長寿社会へ導き、私たちに続く形で超高齢社会を迎える世界各国のモデルケース、これこそが『地球プロジェクト』になる」との期待が寄せられました。

こうした私たちの地道な取り組みに具現化の光が見え始めたタイミングで持ち上がったのが、茅ヶ崎市の榎島スポーツ公園整備事業でした。



全国の行政も注目!
公民連携の
最先端モデル

柳島スポーツ公園整備事業

茅ヶ崎市初! 公民連携PFI事業

2016年2月2日、後に公園となる約2万坪の敷地の一面において、茅ヶ崎市主催による安全祈願祭が行われました。式典には茅ヶ崎市長や市議会議長、各自治会長、茅ヶ崎を代表する元プロテニス選手の杉山愛さんなど、100人を超える招待者が参列し、この日をもって柳島スポーツ公園は本格的に着工。茅ヶ崎市初のPFI事業である柳島スポーツ公園整備事業がスタートを切りました。2年を超える工事期間において、機軸った作業員は延べ5万人、総作業時間40万時間を超えながら無事故無災害で完成を迎える上での第一歩を踏み出したのです。

PFIとは
Private Finance Initiative
(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)

公共施設の建設工事や維持管理、運営を行う際に、民間の資金やノウハウ、技術的応用を活用しようという手法。国や地方行政に財政的余力がない事情が背景にはありますが、東京オリンピック開催を視野に入れた交通網やインフラ整備が急がれる今、こうした道筋における民間の力を呼びよせる場面に傾いています。橋本を要すれば、私たち地方企業にとって大きなチャンスでもあるのです。



茅ヶ崎スマートウエルネスパーク株式会社

茅ヶ崎スマートウエルネスパーク株式会社は、湘南地域で健康促進事業やスポーツプログラムを提供してきた企業・NPOで構成した特別目的会社です。目的の達成を通じて地元地域のスポーツ・ユースを、設計・建設・運営のあらゆる段階に貢献した「地域の人のニーズや街のために作り上げる公園づくり」を、市民と「地域主導型PFI事業」を推進し、全国に「ローカルファーストスタイル」として発信していくことを目指しています。

所在地 茅ヶ崎市南郷1-4-25 ☎0467-57-0210
代表取締役社長 亀井 健幸 URL <http://www.gsp-park.jp>



地域のための事業は、 地域の企業で

数年前に市から公示された時、これは私たちがやるべき「使命」だと思いました。実はこの件より少し前、老朽化による立て替えが進む市内の既見平地の一エリアを市民の複合施設にするというPPP（パブリックプライベートパートナーシップ）の事業があり、総合生活企業を自負する私たちも人札に参加したのですが、受注がなわず、大手の建設会社が進める工事を複雑な気持ちで眺めながら、地元で100年以上も仕事をしてくる茅ヶ崎を一番よく知っている企業がなぜ任せてもらえないのか、中央の大企業が地元の気持ちに寄り添って永きに亘る真のこ

ろに込められるのかと、そしてこうした結果をもたらす日本の仕組みに大きな疑問を抱きました。私たちのプランは、茅ヶ崎に必要で且つサステイナブルに今後の社会に受け込められるという自信がありましたし、今でもそう思っています。そうした過程もあり「運動公園は絶対に受注しよう」という強い覚悟と情熱がグループ全体に伝わり、チャレンジが始まりました。茅ヶ崎市から出されている基本プランはメインの競技場とそれを取り巻く公園環境の整備ですが、コンペで競うのは、主に「自由提案」と呼ばれる部分。いかに付加価値のある内容が打ち出せるかが鍵となります。そこで「私たちにしかできないカタチ」、「地元企業の連携による施工と運営」という点にこだわりながらアイデア

を重ねていくことにしました。「私たちにしかできない」とは、言い換えれば「私たちにこそできるカタチ」、つまりグループがこれまでに取り組みしてきた様々な事業の組み合わせや融合で新しいスタイルを生み出し、豊かな長寿社会を実現するという。私たちはクラブハウスを「あらゆる市民がスポーツを始めるきっかけづくりができて、またスポーツのある豊かな生活習慣を身に付ける場」として実現するために、コミュニティスタジオ「ヤナギシマラボ」、湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター、レストラン「柳島Kitchen」、湘南ベルマーレサイクルステーションの4つのコンテンツを計画しました。

ローカル企業が75億円の 事業を受注した理由

2014年9月、亀井工業ホールディングスは、地元企業の協力を得て振り上げたこの計画を総額約75億円という金額で落札し事業者に選ばれました。この事業の入札には当初、多くの企業が手を上げ、最終的に3社に絞られました。そのような状況の中、大手スポーツメーカーを含むライバルに勝つのは何故か、落札者の決定基準は人札額だけではありません。設計計画の健全性や事業内容の総合的な検証と合わせ、私たちが最も高い評価を受けていた項目は設計提案と自由提案の部分でした。事業者選定委員会の審査講評には、次のように記されています。

「亀井工業ホールディングスグループについては、地域におけるスポーツを軸としたコミュニティ形成や、ローカルファーストというコンセプトを明確に打ち出し、地域ニーズを踏まえた施設内容やスポーツプログラムの実践など、民間ノウハウを活かした取り組み内容や、地域一丸となって最後まで事業を遂行していく取り組み意欲を高く評価した。」

長らく地場ローカル企業には難しいとされてきたPFI事業ですが、今回は「地域でできることは地域の企業を中心となっていく」という強い意志とアイデアに対して、選定委員の有識者、大学教授、自治体担当者も最大限の理解と共感を示してくれたのです。同年10月にはこのプロジェクトを専任で統括する「茅ヶ崎スマートウエルネスパーク株式会社」を設立し、12月に茅ヶ崎市議会の決議承認をもって本契約となりました。この事業の時は「地元企業による地元企業にしかできないカタチ」です。いずれもノウハウがあり自ら運営できるものばかり。しかしそれらの組み合わせで今までにない形ができました。工事自体は茅ヶ崎建設業協同組合の会員企業と共に進め、レストランは亀井工業ホールディングスグループのグローバルキッチンと杉山愛さんがリード、コンディショニングセンターは、既に市内2ヶ所に開業実績をもつ湘南ベルマーレとともに進めます。バームインターナショナル湘南（理事長：杉山愛）には、スポーツ全般を教育的観点で重要と考えた多彩なコンテンツとネットワークがあります。公園がオープンした今、ここから市民による活用が進んで、想定以上の発展が起るだろうと考えるのがワクワクします。

この事業は、内閣府での事例にも公民連携のモデルとして紹介され全国の自治体や経済産業省、国土交通省などから注目されています。各地の中小企業に希望を与えられる成功事例とすべく、全国の建設業者の代表のつもりで取り組んでいます。



柳島スポーツ公園整備事業
4つの自由提案

全国のモデルケースとなる
まちの「交流拠点」

豊かなライフスタイルと多世代が交流できる拠点づくり



地域の方が様々な活動を行う場



自由提案 1



公園前のおさなお子さんからお年寄り、ハンディキャップのある方など、多世代かつ多様な方が気軽に利用できる交流拠点を目標とし、ヨガ、ピラティス、バランスコンディショニング、クラシックバレエなどのスポーツ系の内容から、脳トレや陶芸、クラフト、英会話レッスンといった文化・学び系の内容まで多彩なプログラムを用意しています。またそれ以外の時間帯はレンタルスタジオとしての利用も可能で、地域の方々

が自分の興味関心に応じて集う場として活用できる空間です。
近隣の幼稚園に子どもを通わせるママ友サークルが、朝時から限られた時間の中で楽しく汗を流し清々しい様子で帰っていったり、「蒸と涼いやすい」と話す利用者がいたり、地域の仲間づくりや多世代交流の拠点となりつつあります。また利用者の中にはスポーツクラブに挫折した方も多く、都度利用が助かるという声や、身体の痛みがなくなった、良い運動も開通った方法では身体を傷めるだけだと気づいたといった声も多くいただきます。

現在は16名の講師による様々なプログラムを提供していますが、何度も来なくなるような居心地のよい場所となるよう、利用者の皆さんへの丁寧な接客や丁寧な対応を心がけて運営しています。ヤナギシマラボは、運動から離れている人も「身体を動かすきっかけ」と出逢い健康的で豊かな生活習慣を手に入れられる場所であり、新たな仲間との交流や出逢いを可能にするコミュニティスペースでもあります。海も近く開放的な立地というのもこのスタジオの魅力で、そうした特長も生かす「ここだからできること」を発信しています。

柳島スポーツ公園の要となるクラブハウス



柳島スポーツ公園の利用者に対する健康増進施策の中心を担うのは、クラブハウス棟内の各施設です。コミュニティスタジオ、レストラン、コンディショニングセンター、サイクルステーションの4つの施設が連携をとることで、体の内側、外側の両面から健康に、また新たなアクティビティとの出会いや仲間との交流の場を創出することで「こころ」の健康にも寄与するサービスを提供しています。
自主的に自由に自治的に、自分たちの

居場所として地域の人たちに使っていただけの場所・空間がコンセプトです。自分のライフスタイルに合わせてクラブハウス全体を楽しんでもらえるように、スタジオでは運動以外の文化的なプログラムも用意、レストランにはウッドデッキも含めゆっくりと食事やお茶を楽しめる環境があります。スポーツをしない方でも観戦や他の来園者との豊かな交流など、多様な利用の仕方ができる施設になっています。



自由提案 2



新鮮な地元産の食材を優先的に使い、
栄養バランスに配慮した食事で健康な体をつくる



柳島Kitchenは、スポーツ公園の利用者をはじめ、幅広く市民の方々に食事を通して健康になっていただく施設であり、健康を通じた多世代交流の拠点として利用できる施設です。杉山美沙子さんの監修による現代風のアレンジを加えた和食をベースとし、誰でも親しみやすく食べられる料理をコンセプトとしています。発酵食品や出汁にこだわり、ひとつのお皿ですべての



栄養素を摂れ、 unnecessaryな化学調味料や保存料を使用せず、食物繊維や塩分量なども含めバランスの良い食事の提供に努めています。地元産の食材を使用することで、お客様に茶々精産の野菜を知ってもらうことももちろん、地域の経済活性化に繋がるローカルファーストとしての意義も担っています。地元産の農家のみならずのお付き合いを通して、一緒に良いものを作り上げていく機会でもあります。
またレストラン事業だけでなく食に関する情報提供や啓蒙を中心とした「食育教室」や「食と未病」「スポーツと未病」など、

健康づくり・栄養教室などを開催することで、市民の方々が主体的に活動するきっかけづくりのお手伝いをします。健康な身体の維持には適度な運動とバランス良い食事が何より効果的ですので、私たちの料理を通して「健康な食事」に対する理解や気づきを提供したいと考えています。特に子どもたちに向けては、栄養についての正しい知識を提供する「食育」の使命も担っていると認識しています。
「食べて健康になろう」をモットーに、地域の方々にとって居心地の良い空間、茶々精の魅力を発信できる空間を目指します。

健康は食と運動のバランスが大切

本日の心と身体の健康を考える時、若者男女、年齢に関わらず、食と運動のバランスはとても大切になってきます。そこで、柳島Kitchenでは、スポーツの習慣に付く食べたいのなかなどを、ここで三食食べると、一日に必要な栄養をバランスよく、そしてもちろん美味しく仕上げたいだけではありません。6歳目の栄養素として注目されている食物繊維は胃腸機能を促し、元気に生活することには有効であることが近年の研究でわかってきています。柳島Kitchenの食事で、より健康的な生活習慣を手につけてみましょう。

バーム・インターナショナル
デュニエス・アカデミー 校長 / 医学博士
杉山美沙子

柳島スポーツ公園整備事業 4つの自由提案



鍼灸専門学校

湘南ベルマーレ茅ヶ崎
コンディショニングセンター柳島

当施設はクラブハウスの単なる一テナントという意識ではなく、競技場をはじめとする柳島スポーツ公園の様々な運動施設を活かし、公園の来園者から身体の不調を訴えるアスリートまで幅広く治療に対応できる存在を目指しています。腰痛などの治療や身体の根本的なゆがみ調整や姿勢の調整など、元気な身体をつ

るサポートはもちろん、運動選手に対してはパフォーマンスを高めるトレーニングのサポートも行います。「今日より明日をより元気に！ 将来にわたって健康に生活する」というコンセプトに向かい、不調の治療、運動機能改善などの健康な身体づくりと維持管理、情報提供など、当院単体だけでなく公園全体の設備を活用した



今日より明日をより元気に

自由提案
3



自由提案
4

CHIIGASAKI
Bellmore
CYCLE STATION

自転車の販売や、湘南エリアで活動するサイクリストが立ち寄り、メンテナンス他、情報交換の場として利用できる「サイクルステーション」。



柳島スポーツ公園 クラブハウス

〒243-0291 神奈川県茅ヶ崎町1300番地1

- ☐ コミュニティスタジオヤナギシマラボ ☎0467-53-8155
- ☐ 柳島Kitchen ☎0467-81-4103
- ☐ 鍼灸専門学校 湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター柳島 ☎0467-53-8167
- ☐ 湘南ベルマーレサイクルステーション茅ヶ崎
(特定非営利活動法人湘南ベルマーレスポーツクラブ) ☎0167-50-0197



第6回 ワンネーションカップ開催

柳島スポーツ公園は、開園直後から立て続けに国際的な大会の試合会場として利用されてきました。2018年3月27日・29日には、U-15ワールドカップの男子U-15ワールドカップが、26日にはワールドカップの女子U-15ワールドカップが開催されました。15ヶ国、メンバーは海外から約400名が集まり、大会期間中は、選手や観客の両方から大会の盛り上がりを感じました。

2019年には、第6回ワンネーションカップが、柳島スポーツ公園で開催されました。これは、アジア大会と同時開催された、大会実行委員会の発表後、柳島スポーツ公園が、大会の開催地として選ばれました。

大会を通じて、国際交流の拠点として、柳島スポーツ公園は、国際的な大会の開催地として、ますます注目されています。



湘南地区の国際交流拠点に

地元自治会や湘南地区まちから協議会と一緒に企画した ローカルファーストを体現する 来場者1万人を越えた開園イベント

柳島スポーツ公園 オープン！

2018年3月25日、柳島スポーツ公園は開園の日を迎えました。この日は、地元自治会や湘南地区まちから協議会と一緒に企画した「ローカルファースト」を体現する「来場者1万人を越えた開園イベント」が開催されました。

このイベントは、柳島スポーツ公園の魅力を最大限に引き出し、地元自治会や湘南地区まちから協議会と一緒に企画した「ローカルファースト」を体現する「来場者1万人を越えた開園イベント」が開催されました。

このイベントは、柳島スポーツ公園の魅力を最大限に引き出し、地元自治会や湘南地区まちから協議会と一緒に企画した「ローカルファースト」を体現する「来場者1万人を越えた開園イベント」が開催されました。



「場所」を創る 人の集まる



温泉



お風呂は、まちのコミュニティスポット

1998年、JR相模線北茅ヶ崎駅の駅前、周りは上場ばかりという一角に「スーパー銭湯 湯快爽快ちがきき」がオープン。「スーパー銭湯」という耳慣れない言葉に開業前から関心合わせも多く、人々の高い関心を集めました。事実、しばらくは建物の周囲に列が回るほどの来場者で連日入場制限を設けたほど。今こそ、こうした日帰りの温泉施設は全国あらゆる地域にあります。当時は「首都圏初」とうたわれるほど珍しく各種メディアで多数紹介されました。

1996年頃、私たちは建築受注を目指す民間提案の一つとして「温泉」を遊びました。当時、愛知県では既に認知が高かったこの商売を、徹底的なリサーチを重ねた上で参入を決断したのは、「土地の有効活用を望む顧客に、スーパー銭湯を提案し施工も受注する」という提案型営業のモデルになると考えたからです。そこで「まずは自分たちで

やってみよう」と、建設費概算や仮設計費管理を行っていた自社中央工場の土地を利用して開業計画を立てました。そしてもうひとつ、温泉が「コミュニティを創出す事業」であること、近い将来、総合的なまちづくりを推進する上で「コミュニティ」、すなわち人が集まる場所を創り出すことは、欠かせないテーマだったのです。

湯快爽快ちがきき店に続いて「びま店」、「みはま店」を直営でオープン。やがて競争が激化した始めた同業他店との差別化のために敷地に温泉を掘り「天然温泉」へ。より上質なサービスの提供を始めた。現在は天然温泉の「野天湯元」、昭和レトロな雰囲気があるコンセプトの「湯けむり橋丁」という2つのブランドで、「たや店」、「くりひら店」（神奈中グループ・神奈中スポーツデザイン運営）、「おおみや店」、「みさと店」（鳥村工業運営）を含む21店舗全7店でグループ



温泉業は原点回帰
砂利踏み始める以前、福祉施設である設計の発想は実は江戸時代まで遡って見ると、行き交う旅人にとってはホッと一息つける交流場でもある湯治場の概念、まちづくりにおける「コミュニケーション」のカタチを創り出すと、創始以来、建設一本だった当社が温泉業界への参入を考えた時、この「温泉」のDNAが、背中をグッと押してくれたのかも知れません。

展開しています。

1号店であるちがきき店は、2018年3月に創業20周年を迎えました。その1月の中では、温泉施設が呆たず役割も変わりつつあります。レジャーとしての利用もある一方で、風俗や食事を媒介に地域の人が気軽に集える「場」というニーズが高まっているのです。店がそのきっかけと企画した「ヨガ」や「アラダダンス」「ストレッチ」「ランニング」「社交ダンス」などの教室は大変好評で、教室で知り合った人たちが、その後一緒にお風呂で汗を流し、会話を交わすうちに仲を越えた交流が広がることが珍しくないそうです。

長寿社会の「まち」のあり方を考える時、こうしたコミュニティ創出のノウハウを活かせるという確信を持って、私たちは今もなお店舗運営に取り組んでいるのです。



■野天湯元 湯快爽快 ちがきき 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎3-2-5 TEL.0467-62-4126 (1998年3月オープン) ■野天湯元 湯快爽快 びま 神奈川県相模原市緑区1-48-25 TEL.046-254-1126 (2000年4月オープン) ■湯快爽快 湯けむり橋丁 ちがきき 千葉県千葉市美浜区新港32-6-31ハイムニューポートリトリート2号棟 TEL.043-248-2641 (2001年10月オープン) ■野天湯元 湯快爽快 たや 神奈川県横浜市中区日吉146-3 TEL.045-854-2641 (2004年10月オープン) ■野天湯元 湯快爽快 湯けむり橋丁 ちがきき 埼玉県さいたま市西区三川3-10-1 TEL.048-620-1126 (2005年10月オープン) ■野天湯元 湯快爽快 湯けむり橋丁 ちがきき 埼玉県三郷市ヒアラシティ2-3-10 TEL.048-954-2641 (2007年7月オープン) ■野天湯元 湯快爽快 くりひら 神奈川県川崎市麻生区生田3-8-2-1 TEL.044-989-2644 (2007年7月オープン)

健康長寿のまちづくり、湘南から発動!

地元企業の連携で実現

湘南ベルマーレ茅ヶ崎フットサルクラブ

茅ヶ崎市の元鳥井工業所跡地を有数の活用として2010年3月に開業。社直営の員田氏氏から委託管理や経営を担ってきたが、何重もの困難を乗り越えながら健康長寿や青少年育成の考えを根付けた。コートはJFA推奨スター認定の人工芝を敷き詰めたものが、選手コートは22の代表湘南ベルマーレの選手だった。中井風司さん（原健興スポーツ公園）を中心に、子どもたちのサッカースクール、レジャーコート、各種大会、地域の祭りやイベント、湘南の歴史を伝える少子高齢化対策を担うための交流を積極的に進めました。また、最新は高齢者の入居が可能な利用もあり、若者男女が笑顔で汗を流す光景が広がっています。

鍼灸整骨院 湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター

「怪我をしたから治療をする」という対応から先ず、「怪我や怪痛を未然に防ぐ」予防法を提案するのが「明日をしっかりと健やかに」を掲げた。コンディショニングセンターの役割です。コンディショニングには健康を維持すること、治療は再び同じ怪我をしないよう運動による改善サポートのほか、既存の治療やスポーツクリニック、フィットネスクラブで行われていることを統合的に連携し、個々のニーズを追求しています。現在、市内3ヶ所にもある治療院は、それぞれに専長を持ち、鍼灸師たちが各自に得意とする「治療方針」は、「治癒」に「運動」に「予防」に「健康」が、湘南ベルマーレは、更に強い連携で「健康長寿なまちづくり」を実現します。この間、開業した「お風呂」は「温泉」が「健康」のキーワードとして、より「健康」のある治療やケアが可能になります。

湘南ベルマーレとの共同事業で、これからの「健康」を創る

少子高齢社会と呼ばれる現状の目前にあり、多くの高齢者を少ない若者が支える厳しい構図が繰り返す中で、互いの負担を少しでも軽くするために、ひとつの方向性として打ち出されているのが「健康寿命を伸ばす」ことです。心身ともに健やかな人生を送ることは、私たちの誰もが願う理想。できるだけ医療や介護の手を借りずに健康なまま長く生活できるよう体力づくりや健康管理を積極的にしていこうという動きに対して、また中高年だけではなく、子どもの頃から家族や地域ぐるみでスポーツを気軽に楽しめる環境づくりが大事であるということも同じように働きかける必要があります。これを果たすために、私たちはリーグで

活躍する地元クラブ「湘南ベルマーレ」にコンセプトとプランを提案して協力を得ました。湘南ベルマーレはスポーツによる地域振興意識の高い団体で、各種スポーツ事業を展開しながら、現役選手が比較的低いと言われるプロ選手が引退後も才能を生かした形で仕事ができる「場」を創り出すことにも力を入れています。共に地域貢献事業の推進を使命とする湘南ベルマーレと鳥井工業ホールディングス。2つの想いのコラボレーションが「湘南ベルマーレ茅ヶ崎フットサルクラブ」「湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター」というカタチとなり、鳥井工業ホールディングスが経営を行っています。

KAMEI FUTSAL MATCH

スポーツで地域交流をというコンセプトで、鳥井工業HOLDINGグループの社員有志が企画・主催するフットサル大会です。これまで多くのチームに合わせた4チームの組み合わせを行いました。試合場には湯快爽快ちがききで汗を流して頂う場所サービスも好評でした。



湘南ベルマーレ茅ヶ崎フットサルクラブ

■所在地 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎3-2-5
TEL.0467-68-1300
URL <http://www.bellmare-futsal-cniqasaki.jp>

鍼灸整骨院 湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター

■北茅ヶ崎駅前
所在地 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎3-2-5
TEL.0467-68-1147

■茅ヶ崎駅前
所在地 茅ヶ崎市茅ヶ崎5-8
茅ヶ崎メディアビルディング1F
TEL.0467-68-3241

■相模原
所在地 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-300番地
相模原リーフ公園クラブハウス2F
TEL.0467-53-8167
URL <http://www.bellmare-comifitoning.com>

ありそうで
なかった?
福祉と医療の
総合施設

「高齢期をよりよく生きる」をテーマとした 心豊かなシニアライフを 最先端モデルで提供

介護付有料老人ホーム ケアヴィレッジ湘南茅ヶ崎

食事、心身の健康、住環境など高齢のできるトータルサービスで「高齢期にいたい家」の実現を目指しています。24時間365日稼働の専員体制による心の通ったほかぬきぬきゆやかな介護や医療体制によるターミナルケアが特長です。ショートステイなどにも対応して好評いただいています。

URL <http://www.carevillage.jp>



生活サポート付 シニア向け賃貸マンション ピバヴィレッジ湘南茅ヶ崎

伝統や気候に恵まれている湘南茅ヶ崎。軒からほのぼのとした空気を感じ、古くから馴染み地として数代人や文化人に愛されてきた文化屋敷。湘南海岸、江の吹、丹次や大山の絶景を眺める景光明媚な環境を楽しむことができます。深いあるシニアライフをサポートしています。

URL <http://www.oivillage.jp>



訪問介護・居宅支援事業所 しおさい

介護や医療のサポートが必要になっても生活環境が壊れることなく自分の住まいで自分らしい生活を続けていくことのできるお手伝いをしています。



建設をベースに、健康、スポーツ、温浴事業と数やかなまらづくりへの基盤整備を進めながら、2011年6月いよいよ「福祉」市場へのチャレンジが始まりました。福祉事業、具体的には介護施設や高齢者マンションとそれに付帯するサービス事業所を複層に入れた計画ですが、ただ他と同じものの数をひた増やすのではなく、先を見据えた仕組みにこそニーズがあると考えた「カタチ」が福祉と医療の総合施設「茅ヶ崎メディカルケアセンター」です。

茅ヶ崎駅南口から徒歩3分という好立地に建設した13階建てのビルの中に、自社で運営する介護付き有料老人ホーム、高齢者向け賃貸マンション、居宅支援・訪問介護事業所、コンディショニングセンターがあり、さらにテナントとして内科クリニック、薬局、リハビリ型デイケアサービスそして湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンターが入っています。賃貸マンションから介護付き有料老人ホームへ移ることも可能。アクティブな暮らしを楽しみたい方には専属コンシェルジュがサポート。またケアヴィレッジでは、急な体調の変化には24時間常駐の看護師やクリニックの内科医、わ

ずか250m先の茅ヶ崎徳洲会病院との連携で対応します。この医療体制が可能にした看取りを含む「ターミナルケア」も特長のひとつ。地域密着型のオールインワン、高齢者の暮らしに必要なサービスが一つの建物に収まることで相互連携や対応の迅速化が可能となり、入居者の方に高い安心感と利便性が提供できる仕組みです。これら全てのサービスの連携を可能にして利用者を提供するという構造は、実はありそうでなかった日本の最先端の専分付モデルケースとして評価されています。



茅ヶ崎メディカルケアセンター
所在地 神奈川県茅ヶ崎町幸町5-8
☎0467-85-1165

日本の先端モデルとして海外から見学

茅ヶ崎市と姉妹都市であるハワイ州カウナヒウラからは、ユール・ワリス市長の発案で、ユール市長夫妻をはじめ、これまでに数回にわたる多くの方が視察に訪れました。ホテルにはない環境と設備の形に強い関心をお寄せられました。

「食」を担う

生きる、食べることへの
こだわりをカタチに

簡単調理4つの笑顔の提供

食べたご本人の笑顔
ご家族の笑顔
施設の現場で働く方の笑顔
収益改善で経営者の笑顔

全国
2,200施設
へ提供!

安全性と仕組みを追求した 高齢者向け食材開発・販売 で福祉の現場を改革

高齢社会の「食」の問題は、命に直結する重要な課題で、実際に様々な取り組みがありますが、私たちは、この社会背景の中で福祉事業者を対象に「食べる人」、「作る人」、「運営する人」それぞれが満足するサービス、というニーズに応えるべく2011年7月、「グローバルキッチン」という会社を新たに設立しました。

主な事業は、調理済冷凍食材の商品開発と販売。商品は食材を急速冷凍するため、合成保存料や合成着色料が要りません。栄養価も味も損なわず、解凍して盛り付ければOKという手軽さゆえに専門のスタッフがいらなくても調理が可能で時間も短縮。食事を提供する家族やスタッフの作業効率と労働環境の改善は高齢社会、とりわけ福祉の中で求められています。どのような状況下でも容易に栄養バランスのいい美味しい食事を提供できる「調理済み食材」、「安心安全」に加えて、こうした現場改善にも誇り込めることと自負しています。

また、高齢者は、肉体の老化や機能の低下、環境の変化で食への意識が失いやすい傾向があると言われていますが、栄養に対する認識不足もあり「たんぱく質エネルギー低栄養状態(FEM)」に陥り、免疫機能や筋力の低下や骨を弱くするような深刻な事態が浮上しています。私たちのメニュー開発は、栄養価の維持はもちろん、食欲を引き出すための「美味しさ」と「見たい目の楽しさ」にもこだわり、ソフト食でもできるだけ素材の原型を維持して提供する「やわらか食」を取扱っており好評を得ています。



**ローカルファーストを目指す
グループでグローバルキッチン?**

グローバルキッチンの「グローバル」は、Think global, Act localという思いがあるからで別に目を向けようという思いがあるからです。一方でグローバルキッチンが食材を加工しているのは各地域の企業や団体です。そして地域の食文化が私たちのサービスを支えています。地域に根ざった食文化が私たちのサービスを支えています。地域に根ざった食文化が私たちのサービスを支えています。地域に根ざった食文化が私たちのサービスを支えています。

創業から7年、私たちの商品は、今、北海道から沖縄まで全国2200以上もの施設が利用しています。グループで運営する介護施設「ケアヴィレッジ」「ピバヴィレッジ」もその一つで、365日の食事を栄養管理や調理も含めた形で提供。利用者が食べるほどに飽きの来ないメニュー開発へのニーズは前より日々無関心です。温浴施設の「湯快爽快」直営店では、260商品を含むメニュー開発、企画、調理指導、食材調達販路の確保を請け負っています。また柳島スポーツ公園内にある「柳島Kitchen」では、地元食材を優先的に使い、栄養価や塩分などバランスを考えた健康な身体のための「食事」を、バム・インターナショナルアカデミー校長、および医学博士でもある杉山美沙子さんの監修によるメニューとして提供しています。食事療法食を在宅で利用したいというニーズには、簡単調理で栄養コントロールのできるエネルギー調整食、タンパク質調整食、やわらか食の個人販売(通販)という形で応え、飲食店・業コンサルティングサービス、高齢者施設向け衛生備品の販売、世界人口の25%を占めるイスラム教向けに「ハラール商品」の開発、販売も行っています。

将来的には自社の管理業士上による献立相談や、ダイエットやアスリート向けの健康指導を含め、すべての人が食を通して元気な社会を作る手助けをしていきたいと考えています。「グローバルキッチン」の亀井奉人代表取締役の言葉は、続きます。「そこで培ったノウハウで日本の良さをアピールしながら海外へも進出ができたら、なによりです。」

超高齢社会の進展を前に、いま「食」の世界が大きく広がるようとしています。

グローバルキッチン株式会社
所在地 東京都港区海岸一丁目9番11号 マリックス・タワー6階 ☎03-6159-0735(代)
代表取締役社長 亀井 奉人 URL <http://www.global.kitchen.jp>

亀井工業ホールディングスについて



商号 亀井工業ホールディングス株式会社

所在地 神奈川県茅ヶ崎市南湖1-4-25

代表取締役 亀井 信幸

電話 0467-86-1111(代)

URL <http://www.kamei.ne.jp>

設立 平成18年10月2日(創業1890年・明治23年)

従業員 約450名(グループ社員170名・パート従業員280名)

業績 全グループ売上約110億円(利益高約5億円)/平成29年度

「K」をデザイン化した三つの輪

これは、亀井工業ホールディングスのビジョンに含まれる「まち・人・未来」を表し、まちと人、人と未来、まちと未来が共鳴し合う輪でありたいという想いが込められています。シンボルカラーのマリンブルーは、湘南の青い海と空を意味し、明るく、楽しく、力強い地域づくりに貢献していきたい、という亀井工業ホールディングスの「こころ」を表したものです。

亀井工業ホールディングスグループ 沿革

- 1890年 亀井組 創業
砂利販売を始める。社会の高度成長によるインフラ整備需要を受け
建設業として展開
- 1897年 山下組 設立(のちに湘南トラスト不動産へ)
- 1947年 亀井組 から 亀井土建 へ
- 1978年 東和工業 設立
- 1984年 亀井土建 から 亀井工業 へ社名変更
- 1990年 創業100周年 100周年事業として新社屋建設
- 1998年 温浴事業に参入 首都圏初スーパー銭湯
湯快爽快ちがさき オープン
- 2000年 温浴事業直営2号店 湯快爽快ざま オープン
- 2001年 温浴事業直営3号店 湯快爽快湯けむり横丁みはま オープン



亀井工業ホールディングスグループ 沿革

2006年 亀井工業ホールディングス 設立

2007年 湘南トラスト住宅 設立

2010年 創業120周年

スポーツ・健康事業「湘南ベルマーレ茅ヶ崎フットサルクラブ」オープン

120周年記念講演会 開催(石原慎太郎元都知事・松沢成文元県知事の講演会)

2011年 スポーツ・健康事業「湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター」

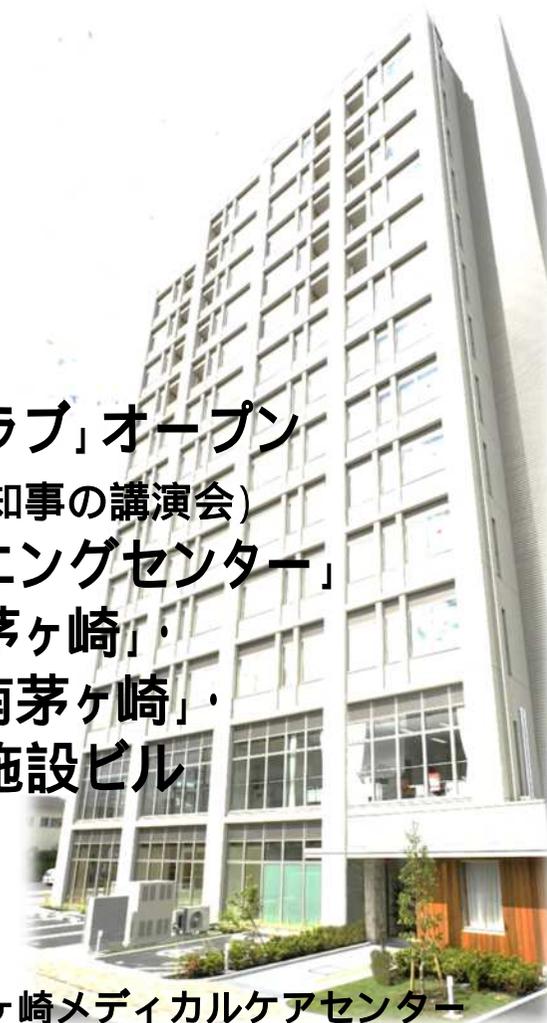
福祉事業 介護付有料老人ホーム「ケアヴィレッジ湘南茅ヶ崎」・

サポート付シニア向け賃貸マンション「ビバヴィレッジ湘南茅ヶ崎」・

訪問介護・居宅支援「しおさい」開設(福祉と医療の総合施設ビル

「茅ヶ崎メディカルケアセンター」としてオープン)

飲食事業 グローバルキッチン株式会社 設立



茅ヶ崎メディカルケアセンター

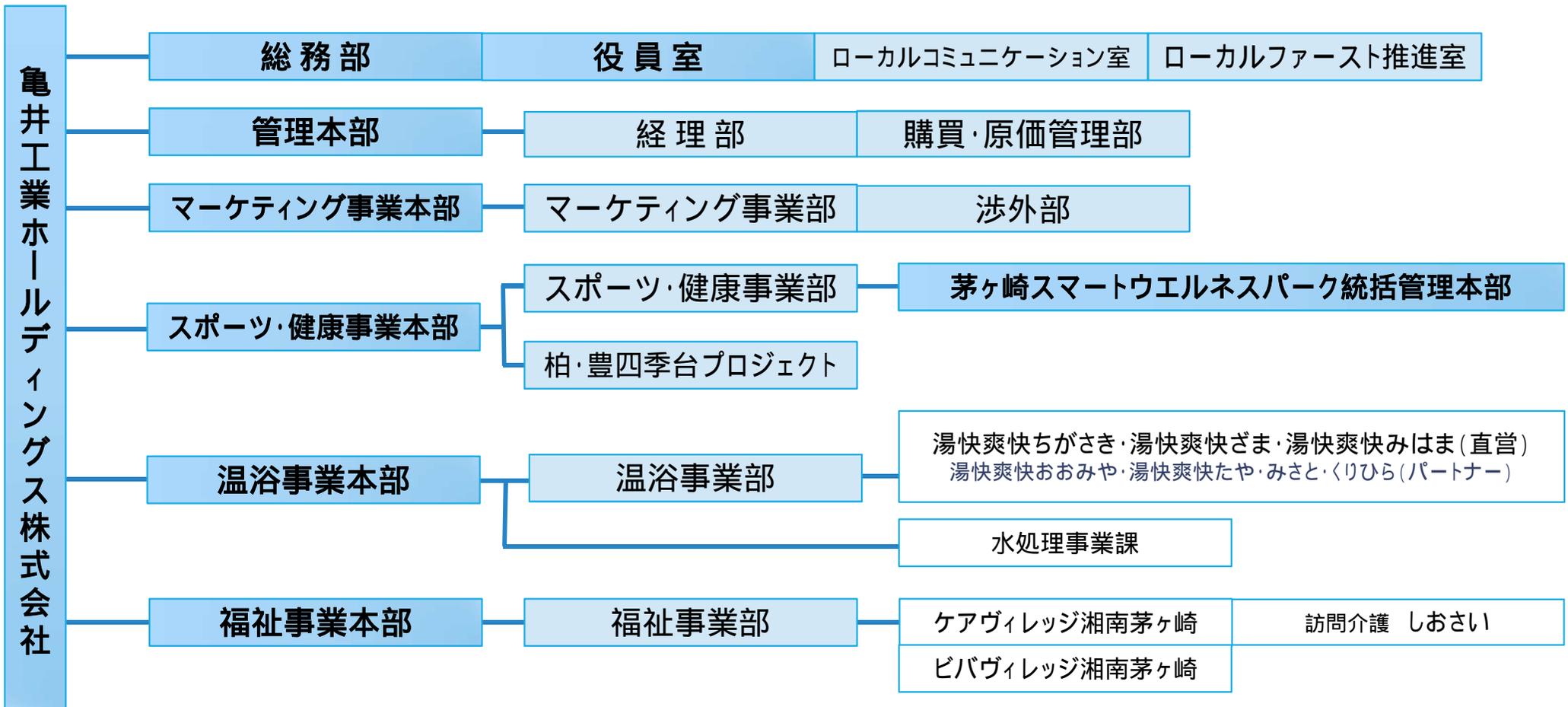
亀井工業ホールディングスグループ 沿革

- 2013年 高齢者配食事業「すこやかキッチン」オープン
スポーツ・健康事業
「湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター駅南口」オープン
- 2016年 柳島スポーツ公園整備事業 着工
- 2018年 柳島スポーツ公園オープン及び運営スタート(以降運営20年間)
「コミュニティスタジオ ヤナギシマラボ」
「ナチュラルフーズ 柳島キッチン」
「湘南ベルマーレ茅ヶ崎コンディショニングセンター柳島」 オープン

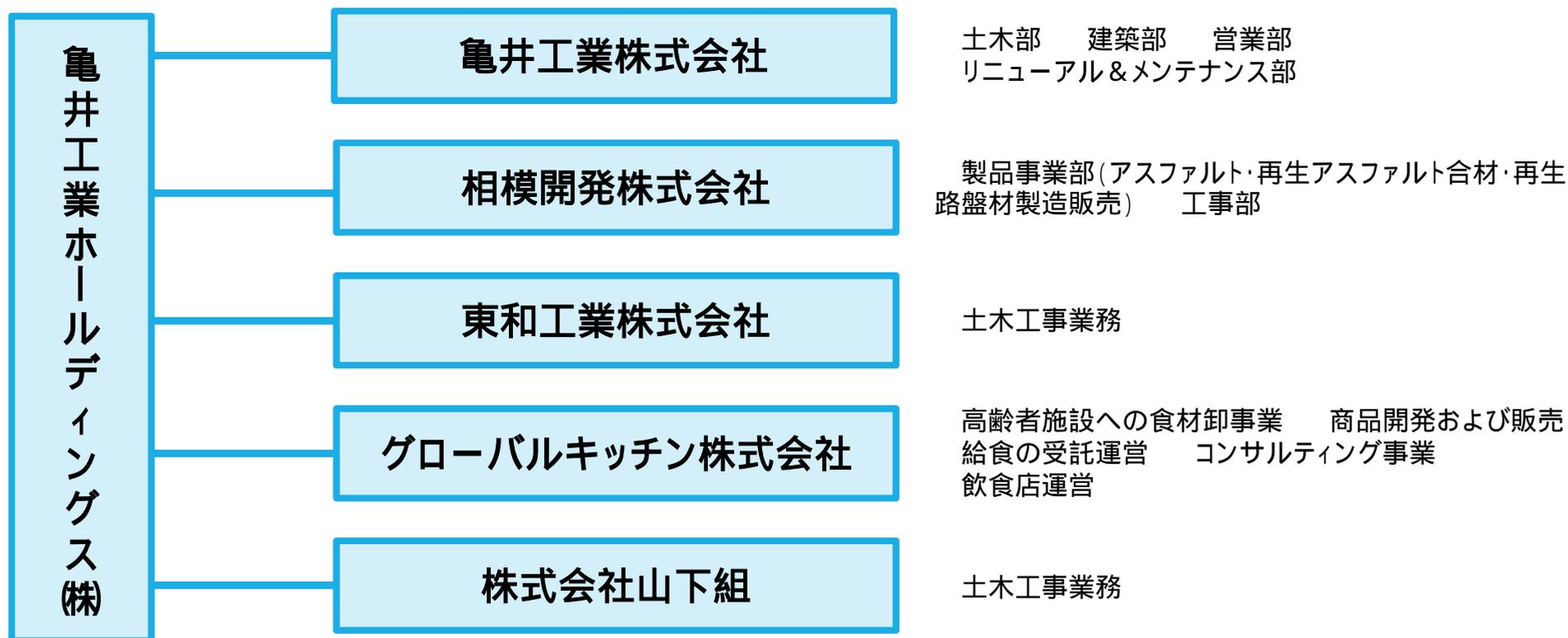
亀井工業ホールディングス MAP



亀井工業ホールディングス株式会社 組織図



亀井工業ホールディングスグループ 組織図



亀井工業ホールディングスグループ グループ会社紹介

相模開発株式会社



昭和40年代の高度成長期、大型の舗装工事で急成長をしていた亀井土建の建材供給不足を解決するため、アスファルト合材プラントを自前で行う目的から設立した。時代のニーズに合わせて昭和60年には建設廃材からの再生砕石、再生アスファルト合材の製造販売も開始。平成27年の圏央道全線開通による物流の変化で新たな競争がある中、舗装工事部門の強化を行い官民間問わず販路を広げ企業の経営安定化をはかっている。

また今年、相模開発・佐藤渡辺JVによる「湘南アスコン」に業界最大手の前田道路が加わり3社JVへ。湘南での合材プラントとして飛躍の機を迎えている。

亀井工業ホールディングスグループ グループ会社紹介

グローバルキッチン株式会社

主な事業は、調理済冷凍食材の商品開発と販売。
商品は食材を急速冷凍しているため、栄養価も味も損なわず、解凍して盛り付ければOKという手軽さが特長。調理が可能で時間も短縮。食事を提供する家族やスタッフの作業効率と労働環境の改善も図れることを提案し拡張してきました。

創業から7年。現在、北海道から沖縄まで全国2200以上もの施設が利用しています。
グローバルキッチンとHDグループ内の連携

グループで運営する介護施設「ケアヴィレッジ」「ビバヴィレッジ」
温浴施設の「湯快爽快」直営店等、PB商品も含むメニュー開発、
企画、調理指導、食材調達販路の確保まで請け負っています。



亀井工業ホールディングスグループ 6つの柱



亀井工業ホールディングスグループのビジョンとコンセプト

まち・人・未来を健やかに

これは、グループの120周年を機に全社員で考えた「新ビジョン」です。それまでの120年を支えてきた「建設・建材事業」による「**まち**」づくり、これからの120年をリードするために取り組んでいる「温泉・スポーツ・健康、福祉、飲食事業」では「**人**」の暮らしと心身を豊かにし、そして全ての事業を通して「**健やかな未来**」を築いていくことのできる「**総合生活企業**」へ！という決意をこめています。

ローカルファースト

ビジョン実現に向け、特に超高齢社会に対応する「まちづくり」に取り組むために、大切な企業の「価値観」です。